

岩 手 県 金 融 経 済 概 況

1. 概 況

県内経済は、緩やかな回復を続けている。

最終需要の動向をみると、個人消費は盛り上がりには欠ける動きとなっているが、設備投資が増加しているほか、住宅投資も前年を上回って推移している。公共工事も下期入り後は前年を上回る発注額となっている。

こうした中、生産が増加しているほか、雇用情勢も改善傾向を続けている。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、盛り上がりには欠ける展開となっている。

(大型小売店売上高)

百貨店の売上高は、初売り・クリアランスセールは比較的好調に推移しているものの、暖冬の影響から冬物衣料品の販売が低調なほか、家庭用品、食料品なども落ち込んでいるため、前年を下回って推移している。

スーパーについては、冬用肌着など季節商品が伸び悩んでいるが、初売りの好調やクリアランスセールで衣料品が盛り返してきたこともあって、前年並みの動きとなっている。

(家電量販店売上高)

家電売上高は、薄型テレビや新型ゲーム機、携帯電話の販売が好調なほか、斜めドラム式洗濯機などの高付加価値の白物家電も堅調に推移している。もっとも、暖房器具が不振であるほか、パソコンやDVDも低調に推移しており、全体としてはやや弱めの動きとなっている。

(乗用車新車登録台数)

乗用車新車登録台数(軽自動車を含む)は、小型車、普通車が前年を下回っているが、軽自動車は新型車投入効果などから前年を大きく上回ったため、全体でも前年を上回った。

(2) 住宅投資

新設住宅着工戸数は、貸家を中心に増加傾向が続いている。

(3) 公共投資

公共工事請負金額は、下期に入って中小工事の発注が増加し、10月～12月では、前年を3割方上回っている。

(4) 設備投資

12月短観調査における県内企業の2006年度設備投資計画をみると、非製造業は前年度を大きく上回っているほか、製造業も前年度を上回る計画となっている。

3. 生産動向

生産は、増加基調にある。

(電子部品類)

電子部品・デバイスでは、薄型テレビなどのデジタル家電や海外の携帯電話向けを中心に増産が続いている。

(輸送用機械)

完成車については、新車種の生産開始に伴い操業度を上げている。自動車部品は、排ガス規制の一巡から国内向けトラック部品が伸び悩んでいるが、海外向けは好調に推移している。

(一般機械)

自動車関連向け工作機械の生産が好調なほか、各種機械部品も幅広い分野から注文が入り高操業を続けている。

(食料品)

水産缶詰は、健康番組効果などから青魚製品を中心に生産が回復している

が、清涼飲料は、暖冬の影響から季節商品が伸び悩んでいることなどから、ほぼ横這いで推移している。

(その他)

鉄鋼(線材)は、タイヤ用コードを中心にフル操業を続けている。セメントやコンクリート二次製品など建設関連品目では、公共工事向けは低調なもの、マンション工事や仙台の地下鉄工事向けに受注が増加していることから、生産は増加傾向にある。

4. 雇用・所得の動向

雇用情勢をみると、労働需給は引続き改善傾向にある。12月の有効求人倍率(季節調整値)は、前月比0.04倍上昇し、0.83倍と平成9年11月以来の高水準となった。12月の新規求人数は、前年同月比で15か月連続の増加となり、医療、福祉や飲食店、宿泊業での新規求人の増加が目立つ。

一方、雇用者所得は前年割れが続いているが、常用労働者数、名目賃金ともに前年比減少幅を縮小したことから、マイナス幅はやや縮小した。

5. 金融面の動向

預金動向をみると、個人預金は堅調に推移しているものの、法人預金、公金預金がいずれも前年割れとなっていることから、全体では前年をやや下回って推移している。この間、投資信託は、大幅な増加が続いている。

一方、貸出動向をみると、法人向けは、低調な域を脱していないものの、個人向けが住宅ローンを中心に堅調なほか、地公体向けも増加傾向にあることから、全体では前年を上回って推移している。この間、貸出約定平均金利(総合:ストックベース)は、短期プライムレート引上げの影響などから緩やかな上昇が続いている。

以 上

本件に関する問い合わせ先 日本銀行盛岡事務所 TEL : 019-624-3622 (代) http://www3.boj.or.jp/morioka/
--